

研修、視察等報告

(政進クラブ 福井加代子)

≪研修、視察日程≫

視察月日	研修先	視察施設	研修内容
令和 8 年 5 月 12 日 (火)	鳥取市役所	鳥取市役所南庁舎 1 階	妊娠出産包括支援モデル事業 助産師による産前産後ケアに ついて
令和 8 年 5 月 13 日 (水) AM	JA 尾道総合病院	JA 尾道総合病院会議 室	尾道方式「膵臓がん早期発見プ ロジェクト」について

1, 妊娠出産包括支援モデル事業について

○視察目的

助産師による産前産後のケア、保健師、保育士等による子育て家庭の支援について先進的な取り組み事例等について学ぶため。

○視察の考察

平成 26 年 8 月から妊娠出産包括支援モデル事業を開始され、産前産後サポート事業として乳児一時預かり、産後ケア事業における母子ショートステイ事業を産科医療機関（助産所を含む）に委託。平成 28 年 8 月に新たに助産所と委託契約を締結、平成 29 年度より母子サービスを開始することで産後ケア事業の充実を図り、安心して出産育児が出来る体制を構築された。特に産後ケア事業の利用者数は年々増加、出産後 1 歳までの母子で利用したいという全ての方が利用可能で、産後 3 か月までの利用者が一番多いとのこと。また、アンケート結果から、育児不安で知識を学ぶため、そして、自ら（お母さん）の休息、体力回復のために利用することが一番多いということから、行き届いた鳥取市の産前産後サポート事業であると感じた。私自身、22 歳だった遠い昔、退院後、何も分からなくて不安だったけど母がいて助かった。良いか悪いかは別として、時代は大きく変わったと実感した。現在、安来市には実施施設として短期入所型はなく、通所型が 2 ヶ所、訪問型が 1 ヶ所のみである。今後、助産師さんなどの情報を調べて、安来市の産前産後サポート事業に協力をお願いしたいとこの視察を通して強く感じた。それが様々な社会環境などで不安を抱く妊婦の方に寄り添える自治体を目指す手助けになると考える。

2、尾道方式；膵癌早期診断モデルについて

○視察目的

「がん」は早期発見、早期治療で治癒という時代になってきたが、膵癌については症状がなく発見しにくいなどの理由で診断された時点で手遅れというケースが依然として多い。

尾道市医師会では2007年から「膵臓がん早期診断プロジェクト」を発足され、中核病院と開業医が一体となりこのプロジェクトを推進された結果、尾道市の膵癌患者の5年生存率は全国平均の3倍となる20%を達成されている。どのようにして、がんの早期発見、早期治療のためのがん検診受診率向上を達成されたのかを学ぶため。

○視察の考察

説明いただいた先生は、松江市でこの膵がんについて研究しておられる先生のことよく知っておられたことから、とても親近感を覚えた。

20年間、やって来られたご苦労とか様々、お話をいただいたが、成功の鍵は、先生の人柄だと感じた。医師会、行政などとの話し合いもそれは大変なことだと想像するが、ひたすら頭を低くして説得された賜物、現在では膵がんの早期診断の取り組みは30ヶ所以上で行われている。その中で、尾道市は行政の支援として、特定検診受診者に対して腹部エコー検査をがん検診に取り入れておられる。金額の個人負担は69歳までが1,500円、70歳から74歳までが600円、75歳以上は500円。この腹部エコー検査を行うことが出来る医師が少ないことが検査をするうえで問題となるが、尾道方式では専門でない医師も独自で学ばれたり、専門医師のもとで勉強されたりすることで、その難題も乗り越えておられる。前向きな姿勢に感銘を受けた。

私が様々な場面で受診をお願いしている「がんの腫瘍マーカー検査」。現在は健診のオプションとなっている腫瘍マーカー検査だが、安来市で行政の支援をして頂き、がんの早期発見、早期治療のきっかけとなるよう、今後、行政の方に働きかけていきたい。そして一人でも多くの安来市民の命を救いたいと考えている。